

中小企業の経営に助言 大垣でワンストップ相談会



事業者の悩みに耳を傾ける相談員
＝大垣市小野、市情報工房

相談員は「一方的な商品の宣伝をしがちだが、SNSはコミュニケーションのツール。商品本体より、使い道とかレシビとか商品の先を見せると良い」などと助言した。
(宮本寛)

中小企業の相談に各分野の専門家が応じるワンストップ経営相談会が、大垣市小野の市情報工房で2日間開かれ、売り上げアップを模索する事業主が助言を求めて駆け込んだ。

大垣商工会議所、大垣共立銀行、大垣西濃信用金庫主催。申し込み件数はオンラインを含めて2日間で計139件(昨年11月は計69件)に上り、西濃地域や県内外から売り上げ増加や販

路開拓、インボイス関連、デジタルトランスフォーメーション(DX)、交流サイト(SNS)活用などの相談が寄せられた。

相談件数の伸びを受け、今回は中小企業診断士や税理士、社会保険労務士、ITアドバイザーなどの相談員を増員。内容に適した相談員が面談し、事業者の訴えに耳を傾けた。

インスタグラムを使った発信について悩みを聞いた